

平成30年度

# 看護ゼミナールⅠ

## ～ テーマ一覧 ～



愛知医科大学 看護学部

*Aichi Medical University College of Nursing*

テ ー マ	医療現場におけるハラスメントについて考える		
担 当 教 員 名	准教授 伊 藤 眞由美		
科 目 概 要	近年、職場における「いじめ」や「嫌がらせ」をはじめとするさまざまなハラスメントが急増し、深刻な問題になっている。保健医療分野においても女性看護師は受けやすい対象であり、対応を誤った場合は、職場全体の人間関係の悪化や、病院として様々なリスクを抱えることになる。本ゼミナールではこういった行為がハラスメントなのか、被害を受けた時の心理的影響をどのように感じ考え、それに対処しているのか具体的に考える機会としたい。この学習を通して、批判的・発見的・論理的な思考能力や表現力、討論への主体的な姿勢を育成する。		
目 標	1 テーマに関連した関心のある課題の関連文献を自ら収集し説明できる。 2 文献を分析する中で、科学的、明瞭かつ批判的・発見的・論理的な思考能力を身につけることができる。 3 新たな視点や考えについて主体的に討議できる。		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス・議題提示
	2	H30.9.19(水)5時限	職場内暴力について①DVD・体験記
	3	H30.9.27(木)5時限	文献検索の方法と情報整理
	4	H30.9.28(金)5時限	文献検索①
	5	H30.10.1(月)5時限	文献検索②
	6	H30.10.2(火)5時限	文献検索③
	7	H30.10.11(木)5時限	課題についてグループワーク
	8	H30.11.12(月)5時限	文献抄読と討論①
	9	H30.11.15(木)5時限	文献抄読と討論②
	10	H30.12.20(木)5時限	文献抄読と討論③
	11	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション準備レポート作成
	12	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーション準備レポート作成
	13	H31.1.21(月)3時限	プレゼンテーションと意見交換①
	14	H31.1.21(月)4時限	プレゼンテーションと意見交換②
	15	H31.1.28(月)5時限	まとめ
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	毎回、指定された課題や関連する文献や関連書籍を読んで参加すること。ディスカッションした内容は、自己学習として振り返り、まとめておくこと(予習・復習として各60分程度を要する)。		
評 価 方 法	ゼミナールへの参加状況(40%)、発表内容(30%)、レポート(30%)		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書は特に指定しない。適宜、参考文献を紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 出席が3分の2以上のものを評価対象とする。 2 積極的な参加を求める。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:10 ~ 17:40 看護学部棟3階N351研究室		

テ ー マ	看護技術のエビデンスについて考える		
担 当 教 員 名	准教授 篠 田 かおる		
科 目 概 要	EBN (Evidence based nursing) は、最新で最良の根拠=エビデンスを良心的に、明示的に、賢明に使うことである。つまり、目の前の患者に看護技術を実践する際には、常にその根拠を考えながら行うことが大切である。本ゼミナールでは、文献から最新の看護技術のエビデンスを探求する。		
目 標	<p>1 関心のあるテーマの関連文献を自ら収集し、テーマに関する知見を整理することができる。</p> <p>2 テーマについて、得られた知見をふまえた自身の考えを、論理的かつ他者にわかりやすく伝達（プレゼンテーションおよびレポート）することができる。</p> <p>3 ゼミナールの過程を通して、テーマに関する今後の課題を見出すことができる。</p>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.19(水)5時限	ガイダンス
	2	H30.9.21(金)1時限	文献検索の方法とクリティーク
	3	H30.9.21(金)2時限	文献検索とテーマの検討
	4	H30.9.25(火)5時限	テーマの明確化
	5	H30.9.27(木)5時限	文献検索
	6	H30.9.28(金)5時限	文献検討
	7	H30.10.2(火)5時限	文献検討
	8	H30.11.12(月)5時限	文献紹介
	9	H30.11.15(木)5時限	
	10	H30.12.17(月)5時限	文献検討
	11	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーション準備
	12	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション
	13	H30.12.21(金)4時限	
	14	H31.1.21(月)3時限	レポート作成
	15	H31.1.21(月)4時限	まとめ、レポート提出
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	毎回、指定された課題や、関連する文献や関連書籍を読んで参加する。ディスカッションした内容は、自己学習として振り返り、まとめておく(予習・復習として各60分程度を要する)。		
評 価 方 法	プレゼンテーション:30%、レポート:40%、出席状況および参加度:30%として評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<p>1 3分の2以上の出席をもって評価する。</p> <p>2 ゼミは主体的に学習する場であるので、積極的に参加すること。</p> <p>3 期限内にレポートが提出されない場合は、減点する。</p>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:30~18:00 看護学部棟4階 N454 研究室		

テ ー マ	看護ケアの根拠を考える ～日常生活援助技術に焦点をあてて～		
担 当 教 員 名	准教授 出原 弥和		
科 目 概 要	演習や実習での体験を通し関心を持った看護技術について、関連文献の検索・検討を行い、その根拠となっている概念や知識などを探求していく。		
目 標	1. テーマに関連する文献を検索し、講読することができる。 2. 文献検討の結果を、自己のテーマに沿って整理分析することができる。 3. 自己の学習成果を論理的に述べることができる(プレゼンテーション、レポート)		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	オリエンテーション
	2	H30.9.19(水)5時限	文献検索の方法
	3	H30.9.21(金)1時限	テーマの探索①
	4	H30.9.21(金)2時限	テーマの探索②
	5	H30.9.27(木)5時限	テーマの明確化
	6	H30.9.28(金)5時限	文献検討①
	7	H30.10.1(月)5時限	文献検討②
	8	H30.10.5(金)5時限	文献検討③
	9	H30.11.12(月)5時限	文献検討報告会①
	10	H30.11.15(木)5時限	文献検討報告会②
	11	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション準備
	12	H30.12.18(火)5時限	プレゼンテーション①
	13	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーション②
	14	H30.12.21(金)3時限	まとめ
	15	H30.12.21(金)4時限	レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	毎回、1時間程度の事前学習と1時間程度の事後学習が必要。 予習：関連する文献を熟読し、自分の意見や考えをまとめる。 復習：授業の内容を振り返り、まとめて整理をする。		
評 価 方 法	ゼミナールへの参加状況 (課題の取り組み状況 20%、参加度 20%) プレゼンテーション(30%) レポート(30%)		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書：指定しない 参考書：必要時紹介する		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1. 自ら主体的・積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。 2. 全体の2/3以上の出席で評価対象とする。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:10～17:40 看護学部棟2階 N257 研究室		

テ ー マ	看護業務に伴う業務上の危険について		
担 当 教 員 名	准教授 山 幡 朗 子		
科 目 概 要	看護職が生涯を通じて健康に働き続けるために、業務上の危険の理解とその対処についての知識を持つことが重要です。看護業務の特性に起因する、看護師の健康や安全をそこなう要因について学び、適切な対応によるリスク低減について考えていきます。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護業務の特性に起因する、看護師の健康や安全をそこなう要因を把握し、関心のあるテーマについて文献を整理する。</li> <li>2 自らが関心のあるテーマについて、討論することにより課題を明確にする。</li> <li>3 明確にした課題について、考察する。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	看護職の健康おびやかすリスク
	2	H30.9.19(水)5時限	看護職の健康おびやかすリスク
	3	H30.9.21(金)1時限	テーマの報告
	4	H30.9.21(金)2時限	文献検索①
	5	H30.9.28(金)5時限	文献検索②
	6	H30.10.1(月)5時限	文献抄読①
	7	H30.10.2(火)5時限	文献抄読②
	8	H30.10.5(金)5時限	文献抄録③
	9	H30.11.3(土)9～12時	学術集会参加
	10		
	11	H30.11.12(月)5時限	プレゼンテーション、ディスカッション①
	12	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション、ディスカッション②
	13	H30.12.18(火)5時限	プレゼンテーション、ディスカッション③
	14	H30.12.21(金)3時限	個人レポートの作成
	15	H30.12.21(金)4時限	個人レポートの作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>「看護職の労働安全衛生ガイドライン」を読んで参加すること。</p> <p>復習としては、講義の内容について資料やディスカッションの内容を振り返りまとめておくこと。</p> <p>予習復習に必要な時間は、各60分程度。</p>		
評 価 方 法	レポート20%・発表20%・討議への参加度60%		
教 科 書 ・ 参 考 書	特に指定しない		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<p>第7回日本産業看護学会学術集会(ウインクあいち)参加を予定しています。参加費2,000円および交通費は自己負担となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的に参加すること。</li> <li>2 課題の提出期限(別途、指示します)厳守を絶対条件とします。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	<p>月曜日 16:10～17:40 看護学部棟3階N353研究室</p> <p>事前にアポイントメントをとることが望ましい。</p>		

テ ー マ	看護職者における職業感染予防について考える		
担 当 教 員 名	講 師 三 善 郁 代		
科 目 概 要	感染看護の実践・研究・教育において、関心のあるトピックスの関連文献の講読や関心のある課題を深める。この学習を通して、論理的な思考能力や表現力、討論への前向きな姿勢を涵養する。		
目 標	1 関心のあるテーマの関連文献を自ら収集し、分析することができる。 2 文献検討や討議を通して課題を迫及することができる。 3 関心のあるテーマについて、新たな視点や自身の考えをプレゼンテーションやレポートを通して、論理的に述べるができる。		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	オリエンテーション
	2	H30.9.19(水)5時限	テーマの明確化：文献検索①
	3	H30.9.25(火)5時限	テーマの明確化：文献検索②
	4	H30.9.28(金)5時限	テーマの明確化：文献検索③
	5	H30.10.1(月)5時限	テーマの決定と報告
	6	H30.10.5(金)5時限	文献紹介と討議①
	7	H30.11.13(火)1時限	文献紹介と討議②
	8	H30.11.13(火)2時限	文献紹介と討議③
	9	H30.11.14(水)1時限	プレゼンテーション準備①
	10	H30.11. (土)3時限	愛知感染予防ネットワーク講演会参加
	11	H30.11. (土)4時限	
	12	H30.11. (土)5時限	
	13	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション準備②
	14	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション・討議①
	15	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーション・討議②、まとめ
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	予習：毎回、提示された課題を次回のゼミまで行ってくる。60分程度。 復習：毎回、ゼミでの検討結果を追加修正する。60分程度。		
評 価 方 法	最終レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、ゼミナールへの出席及び参加度(20%)、課題の実施状況(10%)		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1 学生の主体的かつ積極的な参加を求める。 2 3分の2以上の出席を持って評価の対象とする。 3 愛知感染予防ネットワーク講演会参加については開講後に詳細を通知する。 (11月土曜日の予定)		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:10~17:40 基礎科学棟3階 N370研究室		

テ ー マ	プログラミングの考え方をを用いて、創造性・視野・思考力を広げ、情報とその活用について考察する。		
担 当 教 員 名	講 師 草 野 純 子		
科 目 概 要	<p>情報は看護を行う上で欠かせないものである。身の回りには多くの情報がある。情報の種類や伝達方法等を知識として持っているだけではなく、活用しなければ意味がない。様々な文献を活用し、情報の活用方法、発想力を身につけ、看護での情報活用について考察する。</p> <p>自らが興味を持つ、あるいは取り組みたいと考えることについて調べ、テーマを決定し、プレゼンテーションを行い、まとめる。</p>		
目 標	<p>1 学生自らが文献検索を通じ、文献に示された文脈を理解し、要約することができる。</p> <p>2 討論、発表を通して、他者の意見を受け入れ、自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。</p> <p>3 資料の収集と整理、分析、まとめ、発表を通して、知識を探求するための様々な考え方を身につける事ができる。</p>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス
	2	H30.9.19(水)5時限	取り組むテーマの探索①
	3	H30.9.21(金)1時限	取り組むテーマの探索②
	4	H30.9.21(金)2時限	課題についてのワーク①
	5	H30.10.11(木)5時限	課題についてのワーク②
	6	H30.11.12(月)5時限	課題についてのワーク③
	7	H30.11.15(木)5時限	中間発表①
	8	H30.12.17(月)5時限	中間発表②
	9	H30.12.18(火)5時限	プレゼンテーション準備
	10	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーション準備
	11	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーションと意見交換①
	12	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーションと意見交換②
	13	H31.1.21(月)3時限	文献検討とまとめ(個別ワーク)
	14	H31.1.21(月)4時限	文献検討とまとめ(個別ワーク)
	15	H31.1.22(火)4時限	個人レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>予習：自分の興味のあるテーマに関連した情報を集め、要約しておく。</p> <p>復習：ゼミを振り返り、追加の情報を集め、要約しておく。</p> <p>予習復習に必要な時間は、各60分程度。</p>		
評 価 方 法	文献検討の取り組み(30%)、グループワークや討論への参加(30%)、レポート(40%)をあわせて総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	必要時に参考文献等を提示する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	学生の積極的な参加を求める。		
オ フィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:10~17:40 基礎科学棟3階 N361 研究室 事前にアポイントメントを取ることが望ましい。		

テ ー マ	手術後患者の回復を考える		
担 当 教 員 名	講 師 佐 藤 ゆかり		
科 目 概 要	近年、入院期間の短縮化に伴い、患者は、術後の回復が十分でないまま、退院します。本ゼミナールでは、術後患者の日常生活に着目し、術後の生活への問題を明らかにし、その看護について考えていきます。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 術後、患者の健康と生活に目を向け患者の体験と課題を理解する。</li> <li>2. 術後の患者に対する看護の役割について考察する。</li> <li>3. 文献検討や発表を基に、自己の考えをレポートにまとめることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.19(水)5時限	ゼミナール オリエンテーション
	2	H30.9.25(火)5時限	取り組むテーマの探索
	3	H30.9.27(木)5時限	文献検索①
	4	H30.10.2(火)5時限	文献検索②
	5	H30.10.3(水)5時限	文献検索③
	6	H30.10.11(木)5時限	取り組むテーマの決定
	7	H30.11.12(月)5時限	文献抄読と検討①
	8	H30.11.13(火)1時限	文献抄読と検討②
	9	H30.11.13(火)2時限	文献抄読と検討③
	10	H30.11.14(水)1時限	文献抄読と検討④
	11	H30.11.15(木)5時限	文献抄読と検討⑤
	12	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション準備
	13	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーションと意見交換①
	14	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーションと意見交換②
	15	H31.1.21(月)3時限	レポート作成・提出
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>事前に配布された資料を必ず読んでくること(60分)</p> <p>ディスカッションでの意見を踏まえ、考えを整理すること(60分)</p>		
評 価 方 法	参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書は指定しない。参考書はその都度提示する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席3分の2以上の者を評価の対象とする。</li> <li>2. 学生の積極的な参加を求める。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水・木曜日 16:30~18:00 基礎科学棟3階N365研究室		



テ ー マ	クリティカルケアの看護について考える —命を救い、回復の促進と QOL を向上させる看護—		
担 当 教 員 名	講 師 鈴 木 里 美		
科 目 概 要	<p>生命の危機状態でのクリティカルケアは、医師の補助的役割が大半だと思いませんか？生命危機の状態の中でも、回復を促進し QOL を高めるための、クリティカルケア看護の役割とはいったい何でしょうか。患者のニーズに沿った看護を実践するために、私たちの行う根拠に基づいた看護(Evidence-Based Nursing : EBN)をどのように探し、どのように活用すればよいのか、文献の読み方と、看護における Evidence の活用について考えていきます。このゼミナールでは、自ら興味を持ったテーマに沿い、文献検討を行い、ディスカッションを通して、クリティカルケアに求められる看護の役割について考えていきます。</p>		
目 標	<p>1) 自らが関連資料を検索し、深めたい内容を明らかにする。 2) 自らが関連資料を検索し、問題点を整理できる。 3) Evidence を活用する方法を全員で討論する。 4) 自らの疑問を追及する姿勢を身につける。</p>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H 3 0 . 9 . 1 8 ( 火 ) 3 時 限	ガイダンス
	2	H 3 0 . 9 . 1 9 ( 水 ) 5 時 限	文献検索の仕方、読み方
	3	H 3 0 . 9 . 2 1 ( 金 ) 1 時 限	文献の検証 ①何が問題か
	4	H 3 0 . 9 . 2 1 ( 金 ) 2 時 限	文献の検証 ②Evidence の検索
	5	H 3 0 . 9 . 2 8 ( 金 ) 5 時 限	文献の検証 ③Evidence の吟味
	6	H 3 0 . 1 0 . 2 ( 火 ) 5 時 限	テーマの発表とディスカッション
	7	H 3 0 . 1 0 . 1 1 ( 木 ) 5 時 限	問題点の発表とディスカッション
	8	H 3 0 . 1 1 . 1 2 ( 月 ) 5 時 限	問題点の発表とディスカッション
	9	H 3 0 . 1 1 . 1 3 ( 火 ) 1 時 限	問題点の発表とディスカッション
	10	H 3 0 . 1 1 . 1 3 ( 火 ) 2 時 限	エビデンスの発表とディスカッション
	11	H 3 0 . 1 2 . 2 0 ( 木 ) 5 時 限	エビデンスの発表とディスカッション
	12	H 3 0 . 1 2 . 2 1 ( 金 ) 3 時 限	看護への活用発表
	13	H 3 0 . 1 2 . 2 1 ( 金 ) 4 時 限	看護への活用発表とディスカッション
	14	H 3 1 . 1 . 2 1 ( 月 ) 3 時 限	まとめ
	15	H 3 1 . 1 . 2 1 ( 月 ) 4 時 限	レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>事前1回～5回：問題点整理のための文献検索。(各2時間) 事後1回～5回：ディスカッションを通し自らの問いを整理する。(各1時間) 6回～15回：プレゼンテーション資料の作成及びレポート作成。(各2時間)</p>		
評 価 方 法	<p>1) 参加態度(出欠席・遅刻) (10%)、発表内容 (40%)、レポート (50%) で総合的に評価する。 2) 出席が3分の2以下の者は評価を受けることができない。 3) レポート内容が評価点に満たない場合1回のみ再レポートを認める。</p>		
教 科 書 ・ 参 考 書	<p>八重ゆかり、海野康子(翻訳)EBN ユーザーズ・ガイドーそのエビデンスを役立てるために、中山書店 2,940円 ガイダンス時に持参すること。 *参考図書及び参考文献は適宜紹介する。</p>		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<p>*英文献の取扱いも含む。 *発表時の資料は人数分用意すること。</p>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	<p>水曜日・木曜日 16時30分以降 C棟5階 個人研究室② 教員と相談の必要な学生は、事前にアポイントを取ることが望ましい。</p>		

テ ー マ	がんをもつ対象者の意思決定を支える看護を考える		
担 当 教 員 名	講 師 森 莉 那		
科 目 概 要	がんをもつ対象者は、診断前から治療や療養についてなど長期にわたってさまざまな意思決定を必要とする。人生の最終段階になって取り組むのではなく、早期からの計画的なアドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning:ACP)が推奨されているなかで、がん看護の役割とは何かを考える。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんをもつ対象者の意思決定支援について、現状と課題を理解する。</li> <li>2. がんをもつ対象者の意思決定に関する文献から、関心のあるテーマを設定し、期待される看護について考察する。</li> <li>3. 自己の考えを整理し論理的に他者へ伝える。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.19(水)5時限	オリエンテーション
	2	H30.9.27(木)5時限	がんをもつ対象者の意思決定に関する課題
	3	H30.10.1(月)5時限	文献検索とクリティークの方法
	4	H30.10.2(火)5時限	文献検索①
	5	H30.10.3(水)5時限	文献検索②
	6	H30.10.5(金)5時限	文献検索③
	7	H30.10.11(木)5時限	文献レビューとテーマの決定
	8	H30.11.13(火)1時限	文献抄読とディスカッション①
	9	H30.11.13(火)2時限	文献抄読とディスカッション②
	10	H30.11.15(木)5時限	プレゼンテーション準備
	11	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーションと意見交換①
	12	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーションと意見交換②
	13	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーションと意見交換③
	14	H31.1.21(月)3時限	ゼミナールのまとめ
	15	H31.1.21(月)4時限	課題レポート作成・提出
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>予習として事前にごん患者の意思決定に関連する文献や書籍、新聞・雑誌記事、手記、ブログなどを読んで参加すること。復習としては、ゼミ内容について資料やディスカッションの内容を振り返りまとめておくこと。</p> <p>予習復習に必要な時間は、各60分程度。</p>		
評 価 方 法	ゼミナールへの参加状況(20%)、発表内容(40%)、課題レポート(40%)として、総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p>		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠席の確認をし、3分の2以上の出席をもって評価の対象とする。30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。</li> <li>2. 本ゼミナールは、ディスカッションやプレゼンテーションなど学生主体で進めていくため、積極的で主体的な参加を求める。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	<p>月曜日 16:30~18:00(左記以外は事前にメール等でアポイントをとる)</p> <p>看護学部棟2階 N254 研究室</p>		

テ ー マ	慢性の病いをもつ対象者の行動変容について考える		
担 当 教 員 名	講 師 谷 口 千 枝		
科 目 概 要	慢性の病いをもつ対象者は、今までの生活習慣を変化させたり、必要な生活習慣を獲得するなどの行動変容を求められることがある。しかし、多くの場合一方的な指導では人は行動を起こそうとしない。それでは人はどのような条件で行動を起こすのか。このゼミナールでは、人が行動を起こすための理論的背景を基に、看護者としての関わりについて考える。		
目 標	1. 慢性の病いをもつ対象者の行動変容とその理論的背景について理解できる。 2. 文献を検索し、関心のあるテーマを設定できる。 3. 関心のあるテーマについて得られた知見から自分の考えを見出し、プレゼンテーションやレポートを通して論理的に述べることができる。		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.19(水)5時限	ガイダンス、行動変容の理論的背景
	2	H30.9.21(金)1時限	文献検索の方法と読み方
	3	H30.9.21(金)2時限	文献検索①
	4	H30.9.25(火)5時限	文献検索②
	5	H30.10.2(火)5時限	文献紹介と取り組むテーマの報告
	6	H30.10.3(水)5時限	文献レビュー①
	7	H30.10.5(金)5時限	文献レビュー②
	8	H30.10.11(木)5時限	文献レビューの報告と討論①
	9	H30.11.13(火)1時限	文献レビュー③
	10	H30.11.13(火)2時限	文献レビュー④
	11	H30.11.15(木)5時限	文献レビューの報告と討論②
	12	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーションの準備
	13	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション・討議
	14	H30.12.21(金)4時限	
	15	H31.1.21(月)3時限	まとめ、レポート作成・提出
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	予習として報告や討論までに必要な文献等を読み、まとめてくること。復習として講義の内容について資料やディスカッションの内容を振り返りまとめておくこと。予習復習に必要な時間は各60分程度。		
評 価 方 法	ゼミナールへの参加状況(30%)、発表内容(40%)、課題レポート(30%)により、総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1. 3分の2以上の出席をもって評価の対象とする。 2. 30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。 3. 学生の主体的な参加を求める。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:30~18:00 基礎科学棟3階 N367研究室		

テ ー マ	認知症のある人とその家族への支援について考える		
担 当 教 員 名	准教授 荻野 朋子		
科 目 概 要	認知症をもちながら生活する本人やその人を支える家族の体験について理解を深めます。そのうえで、それぞれの生活にはどのような困難があり、どのような支援ができるのかを考えていきます。 ポートフォリオを活用し、意志ある学びをする力をつけていきます。		
目 標	1. 関連文献を検索し、読み、要約することができる。 2. テーマに関する自分の課題を明確にし、論理的に思考した結果を発表できる。 3. 討論を通じて、自分の課題について考察することができる。 4. 主体的な学習姿勢を高めることができる。		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス 自己の現在の関心についてのプレゼン
	2	H30.9.19(水)5時限	文献検索・文献クリティーク
	3	H30.9.27(木)5時限	文献検索①
	4	H30.10.1(月)5時限	文献検索②
	5	H30.10.11(木)5時限	取り組むテーマの発表
	6	(開講後に調整)	フィールドワーク
	7	(開講後に調整)	
	8	H30.11.13(火)1時限	テーマの決定・文献検索
	9	H30.11.13(火)2時限	文献検討・討議①
	10	H30.12.17(月)5時限	文献検討・討議②
	11	H30.12.18(火)5時限	文献検討・討議③
	12	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーションの準備
	13	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション・討議
	14	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーション・討議
	15	H31.1.21(月)3時限	まとめ・レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	1. ゼミを通して必要な文献を読む。 2. テーマに対し各自、資料を準備して臨む。予習各60分程度。 3. 討議で得た意見を基に課題を明確にし、必要な文献検討を行い、次回の発表の準備を行う。復習各60分程度。		
評 価 方 法	文献検討への取り組み(30%)、発表内容・討議への参加(40%)、レポート(30%)として総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書：特に指定しない。 参考書：必要時紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	1. 学生の主体的、積極的な参加を求める。 2. レポート提出は、最終授業時間に提出とする。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 16:30~18:00 C棟5階個人研究室④		

テ ー マ	老年看護領域における最新の看護トピックス		
担 当 教 員 名	准教授 田 中 結花子		
科 目 概 要	看護実践・研究・教育など関心のあるトピックスや関連文献を講読し、ゼミナールを通して関心のある課題を追求し、理論的な思考能力や表現力、討議への積極的な姿勢を教授する。		
目 標	1. 看護を取り巻く医療、社会の変化に対応するために、老年看護領域における最新の看護トピックスに関する知識を習得する。 2. 老年看護領域における最新の看護トピックスへの関心、及び自ら学ぶ能力を育成する。		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30. 9. 18(火) 3 時限	ガイダンス
	2	H30. 9. 19(水) 5 時限	「高齢者に必要な災害への備えと対処」
	3	H30. 11. 12(月) 5 時限	災害時に避難所で生活をする高齢者の看護と介護の連携
	4	H30. 11. 13(火) 1 時限	まとめ
	5	H30. 11. 13(火) 2 時限	グループワーク
	6	H30. 11. 14(水) 1 時限	高齢者の介護に伴う家族介護者のニーズとサービス提供
	7	H30. 12. 17(月) 5 時限	学生の興味があるテーマのクリティーク
	8	H30. 12. 18(火) 5 時限	学生の興味があるテーマのクリティーク
	9	H30. 12. 21(金) 3 時限	パワーポイントによる発表
	10	H30. 12. 21(金) 4 時限	パワーポイントによる発表
	11	H31. 1. 21(月) 3 時限	高齢者がいる家族のセルフケアの機能、家族アセスメントの目的と方法について演習を用いて理解を深める。
	12	H31. 1. 21(月) 4 時限	高齢者がいる家族のセルフケアの機能、家族アセスメントの目的と方法について演習を用いて理解を深める。
	13	H31. 1. 21(月) 5 時限	高齢者がいる家族のセルフケアの機能、家族アセスメントの目的と方法について演習を用いて理解を深める。
	14	H31. 1. 22(火) 4 時限	健康問題を持つ高齢者の家族の事例をとおして家族看護における看護職の役割、家族の QOL 向上を目指した家族の主体性と潜在能力を引き出す基本的な支援方法について理解する。
	15	H31. 1. 28(月) 5 時限	まとめ
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	予習として事前に講義内容に関連する文献・書籍を読んで参加すること。 復習としては、講義の内容について資料やディスカッションの内容を振り返りまとめておくこと。 予習復習に必要な時間は、各 60 分程度。		
評 価 方 法	レポート 40%、発表 40%、毎回のコメントシート 20%		
教 科 書 ・ 参 考 書	特に指定しない。参考書は、講義、演習前に説明する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	老年看護学領域に関心のある学生を募る。学生自身によるテーマ課題の設定もある。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 17:00～18:30 基礎科学棟 3 階 N369 研究室		

テ　　ー　　マ	ウィメンズヘルス～性と生の健康について看護を考える～		
担　当　教　員　名	准教授　山　本　弘　江		
科　目　概　要	女性の健康(ウィメンズヘルス)に関する国内外の今日的課題を取り上げ、それに関する文献をグループディスカッションするなどして、多角的に探求する。また、このプロセスにおいて看護研究方法を学ぶ。		
目　　標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウィメンズヘルスに関する今日的課題を1つ取り上げ、その内容を文献検討・発表を通して深め、説明することができる。</li> <li>2. グループディスカッションを通して、自分の意見を論理的に他者に伝えるとともに、他者の意見から視野を広げ多角的に課題をとらえることができる。</li> <li>3. ゼミナールを通して、テーマの探求を行い、看護実践と看護研究のつながりについて説明できる。</li> </ol>		
授　業　計　画　・　内　容 ・　キ　ー　ワ　ー　ズ	1	H30.9.27(木)5時限	オリエンテーション・研究とは
	2	H30.9.28(金)5時限	ウィメンズヘルスに関するトピックス
	3	H30.10.1(月)5時限	文献の探し方
	4	H30.10.3(水)5時限	図書館での個人ワーク(文献検索)
	5	H30.10.5(金)5時限	文献検討の発表
	6	H30.10.11(木)5時限	文献の読み方・クリティークの方法
	7	H30.11.12(月)5時限	個人ワーク(プレゼンテーション準備)
	8	H30.11.13(火)1時限	文献検討とクリティーク①
	9	H30.11.13(火)2時限	文献検討とクリティーク②
	10	H30.11.14(水)1時限	個人ワーク(テーマの探求)
	11	H30.11.15(木)5時限	看護研究ははじめの一步・発表の方法
	12	H30.12.17(月)5時限	個人ワーク(プレゼンテーション準備)
	13	H30.12.21(金)3時限	ディスカッション①
	14	H30.12.21(金)4時限	ディスカッション②
	15	H31.1.21(月)3時限	まとめ・個人レポート作成
準　備　学　修 (　予　習　・　復　習　)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護援助論Ⅰの内容を復習して授業に臨むこと。</li> <li>2. 授業では、学生のプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを通してテーマに関する学びを深めるため、積極的に発言、参加すること。</li> <li>3. プレゼンテーションについて講義内で教員、学生からもらった助言をもとに復習をすること。</li> </ol> (予習・復習に必要な時間は各60程度。)		
評　価　方　法	出席20%　課題への取り組み内容とレポート60% ディスカッションの参加度20%　で総合的に評価する。		
教　科　書　・　参　考　書	特に指定はない。資料は、授業内で配布し、参考図書は適宜紹介する。		
履　修　上　の　注　意　点 及　び　取　扱　い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護に興味や関心を持っていること、また、積極的に授業に参加し、課題に取り組むことができる学生を希望する。</li> <li>2. 履修に関するルールは本学の規定によるものとする。</li> </ol>		
オ　フ　ィ　ス　・　ア　ワ　ー	水曜16:30～18:00　C棟5階個人研究室① 事前にメールでアポイントを取ることが望ましい。		

テ ー マ	これからの子どもと家族に対する看護を考える		
担 当 教 員 名	准教授 大須賀 美 智		
科 目 概 要	小児看護学では、胎生期から成人への移行期まで、またあらゆる健康レベルにある子どもとその家族を対象としている。その中で、自分の関心のあるテーマについて、文献を読みながら、子どもとその家族に対する看護がこれまでどのように研究されているのかを知り、まとめ、発表する。発表・討議を通して、小児看護に対する理解を深める。		
目 標	<p>1. 子どもと家族に対する看護について、関心のある内容について文献を収集・整理し、内容を理解しまとめることができる。</p> <p>2. 文献検討、発表、討議、まとめを通して、他者の意見や考えを聞き、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>3. これからの子どもと家族に対する看護における課題を考えることができる。</p>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	オリエンテーション、自己紹介
	2	H30.9.19(水)5時限	取り組むテーマの探索
	3	H30.9.21(金)1時限	テーマ検討 内容の共有と討議
	4	H30.9.21(金)2時限	文献検索と文献クリティークについて
	5	H30.9.25(火)5時限	文献検索
	6	H30.9.27(木)5時限	文献検索
	7	H30.10.5(金)5時限	文献クリティークと討議
	8	H30.10.11(木)5時限	文献クリティークと討議
	9	H30.11.12(月)5時限	文献検討について・個人学習
	10	H30.11.13(火)1時限	文献検討・個人学習
	11	H30.11.14(水)1時限	文献検討・個人学習
	12	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーションの準備
	13	H31.1.21(月)3時限	プレゼンテーション・討議
	14	H31.1.21(月)4時限	プレゼンテーション・討議
	15	H31.1.28(月)5時限	まとめ・レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	小児に関連する新聞記事・ニュースに目を通し、小児をとりまく環境について理解・関心を高めること。事前課題のある場合は提示された資料を読み、発表できるように準備しておくこと(60分)。 毎回、授業で提示された文献・資料を読み、討議した内容を復習すること(60分)。		
評 価 方 法	発表(2回)各30点、まとめのレポート30点、出席状況及び授業への参加状況10点で総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	特に指定しない。参考図書などは随時提示する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	積極的な参加を求める。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 16:20~17:50 看護学部棟2階 N255 研究室		

テ ー マ	子どもと家族への必要な支援・看護について考える。		
担 当 教 員 名	講 師 赤 荻 純 子		
科 目 概 要	子どもと家族を取り巻く問題・課題は、時代背景など社会環境に大きく影響を受ける。小児看護の対象は、臨床だけでなく、地域に生活する子どもと家族も看護の対象となるので、広く小児と家族を取り巻く問題・課題を捉え、必要な支援を近年の研究報告を通し考える。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 探究したいテーマを見つけ関連の文献収集と内容の整理ができる。</li> <li>2. 自分の意見を整理し、グループメンバーとの意見交換ができる。</li> <li>3. 文献検討からの学びをスライドにし発表ができる。</li> <li>4. 一連の学習から知識を探究するための手段や考え方がわかる。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.19(水)5時限	ガイダンス
	2	H30.9.25(火)5時限	自己の課題の明確化(文献検索等)
	3	H30.10.1(月)5時限	〃
	4	H30.10.3(水)5時限	文献検索・個人ワーク
	5	H30.10.5(金)5時限	課題・方向性の確認、個人ワーク
	6	H30.10.11(木)5時限	文献内容検討・個人ワーク
	7	H30.11.13(火)1時限	文献内容整理・個人ワーク
	8	H30.11.13(火)2時限	文献抄読とディスカッション
	9	H30.11.14(水)1時限	文献抄読とディスカッション
	10	H30.11.15(木)5時限	文献抄読とディスカッション
	11	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション資料作成
	12	H30.12.20(木)5時限	〃
	13	H31.1.21(月)3時限	プレゼンテーション①
	14	H31.1.21(月)4時限	プレゼンテーション②
	15	H31.1.22(火)4時限	振り返り・まとめ(レポート提出)
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文献研究」について、基本的な知識・用語の学習をしておく。</li> <li>・図書館やメディアセンターを活用し、先行研究を探索する。</li> <li>・必要な準備について確認し、学習をすすめる。</li> <li>・予習・復習に必要な時間は各60程度。</li> </ul>		
評 価 方 法	<p>総合的に評価する。評価の内訳は以下の通りとする。</p> <p>文献検討の取り組み(30%)、討議への参加(20%)、発表(30%) 個人レポート(20%)</p>		
教 科 書 ・ 参 考 書	特に指定はしない。必要時、その都度提示をする。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席3分の2以上を評価の対象とする。</li> <li>2. 30分以上の遅刻・早退は2回で1回の欠席とする。</li> <li>3. 主体的に取り組むことを望む。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 16:20~17:50 看護学部棟2階 N253 研究室		



テ ー マ	在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケアを考える		
担 当 教 員 名	准教授 佐々木 裕 子		
科 目 概 要	<p>超高齢社会の現在、人生の最終段階を生きる方を支えるケアが必要とされている。それには、地域の人々のニーズを発見し支援と結び付け、予防から看取りまで、多様な医療・介護が有機的に連携しケア提供される必要がある。このゼミナールでは、住み慣れた地域で最期までその人らしく暮らすことを支える看護職として、「在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケア」のあり方と看護課題を考えたい。なお、このゼミナールの一部は白井裕子講師ゼミと合同とする。</p>		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケアの現状を理解する。</li> <li>2. 在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケアの実践および文献から関心のあるテーマを設定し、ケアの実際を知る。</li> <li>3. 地域包括ケアにおける在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケア実践上の課題を考察する。</li> <li>4. 自己の考えを、論理的に他者に伝える。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	オリエンテーション、概要説明
	2	H30.9.19(水)5時限	在宅ターミナルケア/エンド・オブ・ライフケアの現状理解
	3	H30.9.27(木)5時限	取り組むテーマの探索①②(ゲストスピーカー)*合同ゼミ
	4	H30.9.28(金)5時限	
	5	H30.10.1(月)5時限	取り組むテーマの探索③④(文献学習)*合同ゼミ
	6	H30.10.2(火)5時限	
	7	H30.10.3(水)5時限	取り組むテーマの報告と意見交換①
	8	H30.10.11(木)5時限	取り組むテーマの報告と意見交換②
	9	H30.11.13(火)1時限	フィールドワーク①②
	10	H30.11.13(火)2時限	*合同ゼミ
	11	H30.11.14(水)1時限	プレゼンテーション資料作成
	12	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション①
	13	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーション②
	14	H30.12.21(金)3時限	まとめ
	15	H30.12.21(金)4時限	個人レポートの作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>毎回ゼミナール前に、関心のあるテーマに関する情報を得てくること(60分)。毎回ゼミナール後に、意見交換内容などを振り返り、復習をしておくこと。関心を持った課題について検索し、考えをまとめて次のゼミナールに臨むこと(60分)。</p>		
評 価 方 法	<p>ゼミナールへの積極的な参加(出席状況も含む)を30%、プレゼンテーション内容を30%、個人レポートを40%として、総合的に評価する。</p>		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書は特に指定しない。参考書は適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	学生の積極的で自立した参加姿勢を求める。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 15:45~17:15 事前にアポイントメントを取ることが望ましい。(看護学部棟3階 N352 研究室)		

テ ー マ	人々の暮らしを支える在宅ケアシステムの発展を考えよう		
担 当 教 員 名	講 師 白 井 裕 子		
科 目 概 要	病いや障害をもちながら自宅で生活する人々の暮らしは、それを支える仕組み(専門職の専門性、社会サービスの質や量、制度・政策など)のありように影響される。このゼミでは、身近にあるテレビや新聞報道からみなさんが疑問に感じたことを出発点として、その背景や課題などを整理しながら、在宅ケアシステムの改善策を発展的に考えていきたい。なお、ゼミの一部は佐々木裕子准教授ゼミと合同とする。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ケアシステムについて理解する。</li> <li>2. 介護や在宅ケアに関する現状の中で感じた疑問から、在宅ケアシステムにおける課題を見出す。</li> <li>3. 在宅ケアを支える専門職者、社会サービス、制度・政策をふまえて、在宅ケアシステムの発展を検討する。</li> <li>4. 自己の考えを、論理的に他者に伝える。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	オリエンテーション
	2	H30.9.19(水)5時限	在宅ケアシステムの理解と意見交換
	3	H30.9.27(木)5時限	取り組むテーマの探索①②(ゲストスピーカー)
	4	H30.9.28(金)5時限	*合同ゼミ
	5	H30.10.1(月)5時限	取り組むテーマの探索③④(文献学習)*合同ゼミ
	6	H30.10.2(火)5時限	合同ゼミ
	7	H30.10.3(水)5時限	取り組むテーマの報告と意見交換①
	8	H30.10.11(木)5時限	取り組むテーマの報告と意見交換②
	9	H30.11.13(火)1時限	フィールドワーク①②
	10	H30.11.13(火)2時限	*合同ゼミ
	11	H30.11.14(水)1時限	プレゼンテーション資料作成
	12	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーション①
	13	H30.12.20(木)5時限	プレゼンテーション②
	14	H30.12.21(金)3時限	まとめ
	15	H30.12.21(金)4時限	個人レポートの作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	毎回ゼミナール前に、関心のあるテーマに関する情報を得てくること(60分)。毎回ゼミナール後に、意見交換内容などを振り返り、復習をしておくこと。関心をもった課題について検索し、考えをまとめて次のゼミナールに臨むこと(60分)。		
評 価 方 法	ゼミナールへの積極的な参加(出席状況も含む)を30%、プレゼンテーション内容を30%、個人レポートを40%として、総合的に評価する。		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書は特に指定しない。参考書は適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	学生の積極的で自立した参加姿勢を求める。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 15:45~17:15 事前にアポイントメントを取ることが望ましい。(C棟5階個人研究室②)		

テ ー マ	保健医療福祉の現場における暴力のマネジメントについて考える		
担 当 教 員 名	准教授 大 谷 恵		
科 目 概 要	近年、わが国では保健医療福祉の現場における暴力のマネジメントに関する取り組みが広くなされている。看護職者は暴力の対象となりやすく、過度の精神的ダメージを抱えるケースもある。そこで、保健医療福祉の場が患者・看護師双方にとっても「安全」「安心」できる場となるために、暴力のマネジメントについて考える。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉の場における暴力のマネジメントの現状と課題を理解する。</li> <li>2. 保健医療福祉の場における暴力のマネジメントの方策を検討する。</li> <li>3. 自分の考えを論理的に他者に伝える。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス
	2	H30.9.19(水)5時限	保健医療福祉現場における暴力のマネジメントの現状
	3	H30.9.21(金)1時限	暴力の定義、怒りのサイクルモデル
	4	H30.9.21(金)2時限	怒り・攻撃性のマネジメント
	5	H30.9.27(木)5時限	文献検索・クリティークの方法
	6	H30.10.2(火)5時限	文献検索とクリティーク
	7	H30.10.3(水)5時限	
	8	H30.10.5(金)5時限	文献紹介とディスカッション
	9	H30.10.11(木)5時限	
	10	H30.11.13(火)1時限	安全を守る方法・身体的介入
	11	H30.11.13(火)2時限	
	12	H30.12.17(月)5時限	プレゼンテーションの準備
	13	H30.12.21(金)3時限	プレゼンテーション
	14	H30.12.21(金)4時限	
	15	H31.1.21(月)3時限	レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミナール前は、授業内容に関する資料を読むこと。</li> <li>2. ゼミナール後は、授業内容を振り返り、自分の意見をまとめること。(予習・復習に必要な時間は各60分程度。)</li> </ol>		
評 価 方 法	ゼミナールへの参加状況(出席状況を含む)30%、プレゼンテーション30%、レポート40%		
教 科 書 ・ 参 考 書	テキスト:特に指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書:適宜、参考文献を紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的な参加を求める。</li> <li>2. 出席が3分の2に達した者を評価の対象とする。</li> <li>3. 30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 16:10~17:40 基礎科学棟3階 N373 研究室		

テ ー マ	地域に暮らす精神障害者とその家族の支援		
担 当 教 員 名	講 師 児 玉 まゆみ		
科 目 概 要	成長発達上の危機や些細な社会的変化に影響されやすい精神障害者が、精神科病院に入院することなく、家族とともに地域のネットワークのなかで支えられるケアシステムのあり方について、オープンダイアログの視点から検討する。オープンダイアログとは、精神疾患を発症あるいは精神的危機が起きてから24時間以内に、家族も専門職も友人も近所の人も、あらゆる関係者が自宅に集まって開かれた対話をする治療法である。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンダイアログの治療法を説明できる。</li> <li>2. 日本の精神保健医療の現状を知り、地域で精神健康上の危機を乗り越えるケアシステムの可能性について、自分の考えを述べられる。</li> <li>3. 日本の精神保健医療における課題について、自分なりの問いをたて、地域における精神看護のあり方を考察できる。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス
	2	H30.9.25(火)5時限	文献輪読と話し合い
	3	H30.10.2(火)5時限	文献輪読と話し合い
	4	H30.10.3(水)5時限	文献検索とクリティークの方法
	5	H30.10.5(金)5時限	文献検索とクリティーク
	6	H30.10.11(木)5時限	文献検索とクリティーク
	7	H30.11.12(月)5時限	文献紹介とディスカッション
	8	H30.11.13(火)1時限	イタリア映画から精神障害者の地域生活支援を考える
	9	H30.11.13(火)2時限	
	10	H30.12.21(金)3時限	
	11	H30.12.21(金)4時限	
	12	H31.1.21(月)3時限	地域における精神保健医療の現状と課題に関するフリーディスカッション
	13	H31.1.21(月)4時限	
	14	H31.1.22(火)4時限	学びの発表と共有
	15	H31.1.28(月)5時限	まとめ
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	<p>予習：初回ゼミナールで精神看護分野における関心事を発表してもらおう。各自、文献や新聞記事、ニュース等の情報を集めておくこと。また、教員から配布する文献を各自読み進めるとともに、各自の関心事に関連した文献を収集し、他学生と学びを共有できるよう準備しておくこと。</p> <p>復習：毎回ゼミナール後、重要な話題に関する自分の考えを書き留めておくこと。(予習・復習に必要な時間は各60分程度。)</p>		
評 価 方 法	主体的参加度及び発表内容：60% 課題レポート：30% 出席状況：10%		
教 科 書 ・ 参 考 書	<p>教科書：特に定めない</p> <p>参考書：斎藤環(2015)オープンダイアログとは何か、医学書院。 他、随時提示する。</p>		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	出席が3分の2に達したものを評価対象とする。なお、理由のない30分以上の遅刻及び30分未満の早退は欠席とする。		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	<p>月曜日 16:10~18:00 看護学部棟4階 N452 研究室</p> <p>事前にアポイントを取ることが望ましい。連絡先：kodamama@aichi-med-u.ac.jp</p>		

テ ー マ	感染予防・管理、感染症看護における看護師の役割と機能について考える		
担 当 教 員 名	准教授 長 崎 由紀子		
科 目 概 要	感染予防・管理および感染症看護において、医療機関、高齢者施設、地域ではさまざまな看護活動が展開されている。ゼミナールでは、これらの看護活動の実際と効果について探求し、感染予防・管理および感染症看護における看護師の役割と機能について考える。		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心のある事柄について文献検討を行い、取り組むテーマを絞り込むことができる。</li> <li>2. テーマに関連する文献をレビューし、整理することができる。</li> <li>3. テーマに関して得られた知見を、筋道を立ててレポートにまとめることができる。</li> <li>4. テーマに関して得られた知見を、他者に分かるように発表することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画 ・ 内 容 ・ キ ー ワ ー ズ	1	H30.9.18(火)3時限	ガイダンス 感染予防・管理の研究の動向
	2	H30.9.19(水)5時限	易感染・感染症患者の研究の動向
	3	H30.9.27(木)5時限	文献検索とクリティーク(講義)
	4	H30.10.11(木)5時限	文献検索①
	5	H30.11.12(月)5時限	文献検索②
	6	H30.11.13(火)1時限	フィールドワーク①
	7	H30.11.13(火)2時限	フィールドワーク②
	8	H30.11.15(木)5時限	フィールドワークのまとめ
	9	H30.12.17(月)5時限	文献紹介と取り組むテーマの報告
	10	H30.12.20(木)5時限	文献レビュー①
	11	H30.12.21(金)3時限	文献レビュー②
	12	H30.12.21(金)4時限	プレゼンテーション資料作成
	13	H31.1.21(月)3時限	プレゼンテーションと意見交換①
	14	H31.1.21(月)4時限	プレゼンテーションと意見交換②
	15	H31.1.22(火)4時限	まとめ・レポート作成
準 備 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 )	毎回のゼミナール前後で自己の関心のあるテーマについて、インターネットや新聞などから広く情報収集する(前後各60分)		
評 価 方 法	ゼミナールへの出席及び参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)		
教 科 書 ・ 参 考 書	教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。		
履 修 上 の 注 意 点 及 び 取 扱 い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の主体的な参加を求める。</li> <li>2. 出席が3分の2以上のものを評価対象とする。</li> <li>3. 30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。</li> <li>4. 30分以内の遅刻・早退は、3回で1回欠席扱いとする。</li> </ol>		
オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 16:20~17:50 基礎科学棟3階 N363 研究室		